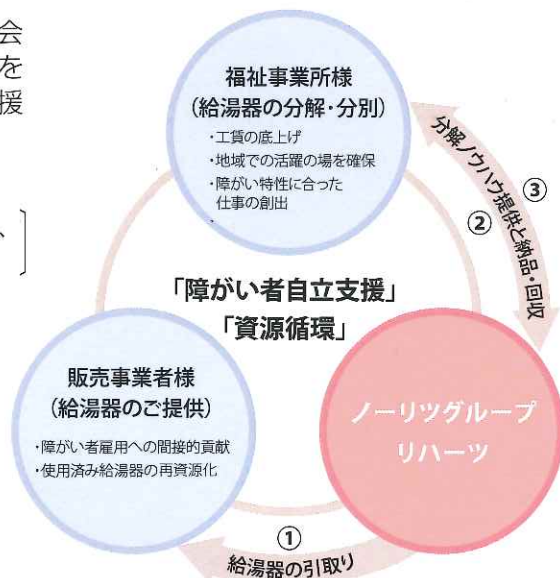


人に笑顔プロジェクトとは??

2008年よりノーリツグループで取組んでまいりました社会貢献活動で、障がいを持った方々にリサイクルする給湯器を分解してもらい、分解工賃をお支払いすることで、自立支援とイキイキと働ける職場づくりを、支援しております。

〔2014年4月より㈱エスコアハーツの100%子会社㈱リハーツが、業務を引継ぎました。〕



- ①リハーツが販売事業者様へ訪問。使用済みの給湯器を回収致します。
- ②回収した給湯器を福祉事業所様へ納品。福祉事業所様で分解し素材別に分別します。
- ③分別された素材は、リハーツが回収。資源再生業者へ出荷。

資源循環

販売事業者様から…
取替え給湯器を回収させていただきます。

販売店様から回収したガス給湯器は、各福祉施設様へお渡しし、分解作業をして頂きます。

分解・分別された部品を再び回収し、分別された各素材は資源再生事業者にて製品リサイクルされております。



2013年度は、約30,000台の給湯器を310社400拠点の販売店様からご協力頂きました。

障がい者自立支援

ガス給湯器リサイクルを通じて・・・

障がい者の方が、いつも笑顔で働ける職場づくりを支援しております。

分解・分別作業に対し作業料をお支払いさせて頂き、施設利用者さま達への工賃アップにつなげております。



現在18ヶ所の福祉事業所様と業務提携。(2014年4月現在)

兵庫県	5 施設様	岩手県	2 施設様
大阪府	1 施設様	神奈川県	1 施設様
香川県	1 施設様	千葉県	1 施設様
広島県	1 施設様	愛知県	1 施設様
宮城県	5 施設様			

実際に働いている作業場を覗いてみました



エスコアハーツリサイクルセンターで
班長を務める本岡さん
(通称モッチー)に
仕事について聞きました。

給湯器の分解の仕事は楽しいです。特に、古い給湯器の分解作業で、なかなか取れない部品が少しの工夫でスコーンと取れた時はすっきりします。メンバーの指導など大変な面もありますが、分解した部品が、また使われ世の中の役にたっていると思うと達成感があります。



エスコアハーツ
リサイクルセンター

班長 本岡 陽介さん

本岡さんは、エスコアハーツ創業当初から頑張ってくれているメンバーの一人。現在は、リサイクルセンターの班長として、分解・分別作業の全ての工程をマスターし他のメンバーを引っ張っています。

輝いている職場を目指して

2011年4月よりガス給湯器分解委託作業を始めさせていただきました。

開始時は、まず動きやすい環境整備に努め、マンツーマンで安全な工具の使い方を一から丁寧に指導しました。今では多種多様な給湯器をエアドライバーを使いこなしてスムーズに分解出来るようになりました。

この仕事の良さは分解する作業のため、部品を壊したからと言って厳しく注意したり、マイナスの声がけの必要はありません。また、手作業に比べて工具を使うことでかっこよく思え、作業の幅や得意な仕事も広がり働く喜びや自信にもつながっています。

正確な分別と工具を駆使してたくさんの方の作業をこなすことで工賃が増えました。そして会社の方から「はぐるま」の作業内容を高く評価していただき、利用者・職員共々このガス給湯器分解作業に携わることができて働く幸せを実感しています。



加古川はぐるま福祉社会
理事長兼センター長

高井 敏子さん

加古川はぐるま福祉会様 作業風景

創意工夫を凝らし、効率よい作業を行える環境づくりをすすめて頂いております。



エアードライバーで給湯器本体から細かい部品を取り出し。



印をつけて使用工具をわかりやすく。



素材が異なる部分は大型カッターを使って切断。



分解分別作業ができるよう、作業台は整理整頓。



部品チェックを行い、同じ素材ごとに部品を収集分別。



すまいる

ノーリツグループ 人に笑顔プロジェクト

2015 夏号
Vol.3

発行所
（株）リハーツ

日頃より、ガス給湯器リサイクルを通じて障がい者の就労機会を創

出する「人に笑顔プロジェクト」にご協力いただき誠にありがとうございます。

早いもので2015年も半分が過ぎました。皆さまからのご協力のもと、ガス給湯器をこの半年で約15,000台回収させて頂くことができました。

今後回収させて頂いたガス給湯器は、提携福祉施設のメンバーと一緒に分解作業に励んで参りたいと思います。さて、すまいる新聞第3号では、神奈川県・千葉県の提携福祉施設様をご紹介しますまいります。

始めて楽しい！！分解作業



アガペセンター 分解作業風景

障害者総合福祉施設
アガペセンター

神奈川県座間市に位置する障害者総合福祉施設アガペセンターは、「チャレンジ」「生きる

力を育む」「社会とつながる」をテーマにした作業支援を半世紀にわたって続けられている。軽作業、情緒処理の受託作業を進めてこられた同施設は、2013年よりガス給湯器の

分解委託を開始。

エスコアハーツ本社や、他の施設を参考にしながら同施設に合った人員・作業配置のアレンジを行ってきた。「給湯器リサイクルに係わる仕事がうまく軌道に乗ってほっとしている」と現場指導員の野村さんは言う。

分解作業を始めて変わったことは、これまで座って行う軽作業ではなかなか仕事の面白みを感じられなかったメンバーが、生き活きと給湯器の分解作業を行っていることだ。

つい先日面談を行ったある作業メンバーの方は、これまで精神的な不安定もあり、週2日程度の出勤しかできなかったのだが、半年前に軽作業から給湯器分解作業に配属が変わった。初めの内は不安そうな表情で指導職員に質問攻

めを繰り返していたが、

今ではすっかり自信がついてガス給湯器の缶体とガスバーナーの部分の解体作業を一手に引き受けて黙々と作業に取り組んでくれている。さらに長期の欠勤や、作業中に静養室で休んだり、早退をしたりすることもめっきり減っているそうだ。

仕事がその人の力を引き出すのを目の当たりにして、ガス給湯器の分解仕事を始めてよかったと実感した瞬間だ。



ガス給湯器 分解作業風景

プロフィール
社会福祉法人

日本キリスト教奉仕団
障害者総合福祉施設

アガペセンター

1964年開設。就労移行支援・就労継続支援B型の多機能型施設。『企業下請部門』の他、『自主製品部門』『洗車部門』、同施設内のカレーキッチン・サラを運営する『飲食部門』の4部門の作業支援で構成。

プロフィール
社会福祉法人

松里福祉会

松里福祉作業所

1991年開設。就労継続支援B型。
駄菓子や袋詰めや箱折りの受注作業の他、自主生産作業として、かき餅やあられの製造販売、ボカシの生産販売など多様な作業支援を実施。

実施。

2015年 分解作業 スタート！！



松里福祉作業所 ガス給湯器分解メンバー

千葉県松戸市に位置する松里福祉作業所は、千葉県障害者就労事業振興センター主催の仕事説明会をきっかけに、今年4月からガス給湯器分解作業を開始した。

説明会后、実際に作業メンバーの前でガス給湯器の分解デモンストラーションを実施したところ、多くのメンバーが興味を示してくれたそうだ。今では、ガス給湯器を分解することでメンバーの作業範囲の幅がひろがり、仕事にやりがいを感じてくれて

いる。しかしながら、作業開始から3か月しか経過していないこともあり、素材の分別や細かい部品の分解作業については、まだまだ苦戦もしている様子。

「ガス給湯器の部品が外れた時の達成感がうれしくて、エアードライバーを使わず、全てのネジを手動ドライバーで外している人が多い。」と話されるように、今は道具の使い方や・部品の特徴に興味を持ちながら、着々と作業を覚えていく段階だ。



みんなで黙々とコイルを分解中



皆様から回収したガス給湯器。

1台1台が笑顔の種に・・・

私たちが福祉施設へお届けします。



すまいる

ノーリツグループ 人に笑顔プロジェクト

2015 秋号
Vol.4

発行所
(株)リハーツ

日頃より、ガス給湯器

リサイクルを通じて障がい者の就労機会を創出する「人に笑顔プロジェクト」にご協力いただき誠にありがとうございます。

早いもので今年も残すところ3カ月をきりました。福祉施設様と共に今年度はガス給湯器分解業務から約550トンの部品を再び資材としてリサイクルすることができました。

今後も皆様から頂いたガス給湯器は、提携福祉施設のメンバーと一緒に分解作業に励んで参りたいと思います。

さて、今季すまいる新聞では、兵庫県・宮城県の提携福祉施設様をご紹介します。

しょうがい者就労支援施設

楓の杜 くれ葉

コウノトリの放鳥で

有名な兵庫県豊岡市の

「就労支援施設楓の杜くれ葉」は、夏場の海水浴で賑わう山陰・竹野海岸に近い自然に囲まれた場所に立地している。

絆 でつなぐ分解ライン作業



楓の杜 くれ葉 分解作業風景



一次工程(左)、二次工程(右)

2013年2月よりガス給湯器分解業務を始め、現在10名のメンバーが分解作業に従事している。作業業務は車の組立ラインからイメージを広げ、3工程に分かれた分解ラインが完成した。同施設の『木工班』手作りの作業台のもと、1日約30台の分解まで成長した。

分解ラインは、まずガス給湯器を大まかな部品に解体(二次工程)し、隣のメンバーへ解体した部品を流していく。そして個々の部品を素材ごとに分解(二次工程)



作業についてお話しする山本さん(左)と野村指導員(右)

し、最後に細かく素材分別する工程に分けて業務を行っている。このような流れ作業にすることで、障がいの適正にあつた作業をメンバーに分担できるのだ。車椅子の方は、最後の素材分別・検品の工程を熟達してもらおうなど個々に適した作業に参加してもらっている。

か、メンバー全員が理解してくれている。「一次工程も、二次工程もどちらも好き。他の作業に比べて一つのこと集中できるし、夢中になって作業できる。」と話してくれるのは開始当初からのメンバー山本さんだ。休憩時間もそっこののでこの分解作業にのめり込んでくれている。

プロフィール
社会福祉法人さいか
しょうがい者
就労支援施設

楓の杜 くれ葉

平成21年開設。就労移行支援・就労継続支援A型・就労継続支援B型の多機能型施設。

ガス給湯器の『解体班』他、『自動車班』、『農園班』、『動物班』、原木から額物等の木工品を制作する『木材加工班』豊富な作業支援を行っている。

開始当初は、どこまで部品を分解していいのかかわらず、作業台の下に分解できない部品をためこむこともあったという。今では、最終の分解・分別がどこまでなの

社会福祉法人 恵泉会
就労継続支援B型
さくらワークス

地域生活の中で

働く意識を



宮城県北東部に位置する登米市は、冬になると白鳥やガンの渡り鳥



さくらワークス ガス給湯器分解メンバー



皆さん手もとの作業に集中

が飛来する伊豆沼・内沼のある「水の里」と謳われている。

その地で活動されている「就労支援B型さくらワークス」は、NPO法人みやぎセルプ協働受注センター主催の新規事業説明会に参加したことがきっかけで、2013年1月よりガス給湯器分解作業を開始した。

ガス給湯器の分解作業は、夏場繁忙期の農園作業とも両立しながら、年々分解スピードも速くなり、分解素材の出荷量も増加中だ。

分解作業は、製造作業や組立作業と違って、部品を壊しても失敗にならないのが利点である

が、同施設では出来る限り部品を壊さず、ドライバ等々の工具を使用して作業をするように指導を進めてこられた。同施設を訪問する度に、いつも整理整頓された作業場と、メンバーの丁寧な作業姿が拝見できる。

『集中しすぎて、たまに分解しなくても良いところまで分解してしまうこともあり。』と指導員の佐藤さんはお話しされた。

趣味から 得意な作業へ

別の作業業務を担当していたある利用者さんに、ガス給湯器の分解作業をお試しでやってみないかとたまたま声をかけた。

すると、インパクト



整理整頓された作業場 風景

ライバーや工具の使い方が上手く、数を多くガス給湯器を分解することができた。工具を使うことがどうして上手なのか聞いてみると、もとプラモデルを作ることが好きで細かい作業が得意だったことが判明した。

それからすぐ作業メンバーに加わってもらい、今ではガス給湯器分解作業に彼は欠かせない存在だ。

プロフィール

社会福祉法人恵泉会

就労継続支援B型

さくらワークス

平成19年開設。就労支援B型施設。定員30名。

受託軽作業（コンテナ・段ボール仕分）（密掃除、除草作業）や農園作業（花や野菜、米などの栽培や販売）

などから就労の機会や生産活動の機会を提供するとともに、一般的なマナーの習慣や体力づくり等の支援を実施。

施設訪問をして

分解作業中は真剣な表情のメンバーさん達でしたが、カメラを向けると素敵な笑顔を返してくれました。素材の仕分も丁寧にされており、指導員さんの几帳面さがメンバーに伝わっておられました。

(株)リーハーツ東北事業所

今野